

## 2015年7月の大気大循環と世界の天候

### 大気大循環

月平均500 hPa 高度をみると、北極付近～グリーンランドで正偏差が明瞭だった。北大西洋北部、ロシア西部、ベーリング海を中心に60°N 帯は概ね負偏差となった。偏西風は、大西洋、中央アジア、日本付近～北米西岸にかけて平年より強く、中央アジアでは北寄り、中国付近では南寄りを流れた。対流圏上層では、ユーラシア大陸で波列状の循環偏差パターンとなり、日本付近は高気圧性の循環偏差となった。

熱帯の対流活動は、平年と比べて、中部～東部太平洋赤道域で活発、インド洋、インドネシア付近で不活発だった。赤道季節内振動に伴う対流活発な位相は、前半は太平洋中部から太平洋東部にみられた。後半は不明瞭だった。対流圏下層の赤道域では、太平洋西部～中部で南北半球対の低気圧性循環偏差となり、西風偏差が卓越した。対流圏上層では、チベット高気圧は平年より弱かった。南方振動指数は-1.5だった。

### 世界の天候

2015年7月の世界の月平均気温偏差は+0.38°C（速報値）で、1891年の統計開始以来、最も高い値となった。7月の世界の平均気温は、上昇傾向が続いており、長期的な上昇率は約0.67°C/100年（速報値）である。

主な異常天候発生地域は次のとおり。

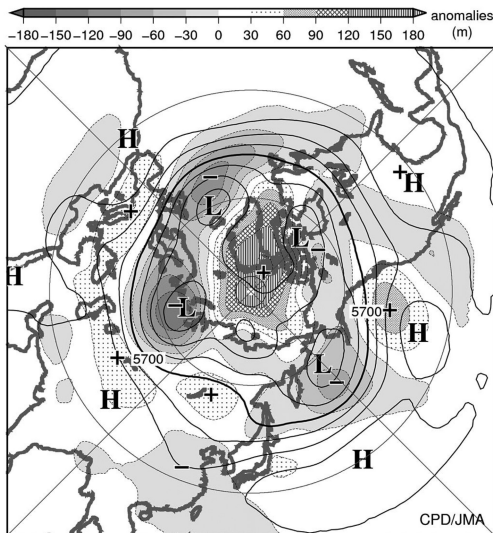
- 低緯度域の各地で異常高温となった。
- ヨーロッパ南部～北アフリカ西部では異常高温となった。
- カリブ海周辺では6月に引き続き異常少雨となった。

（気象庁 地球環境・海洋部 気候情報課）

※ より詳細な情報については、気象庁ホームページ

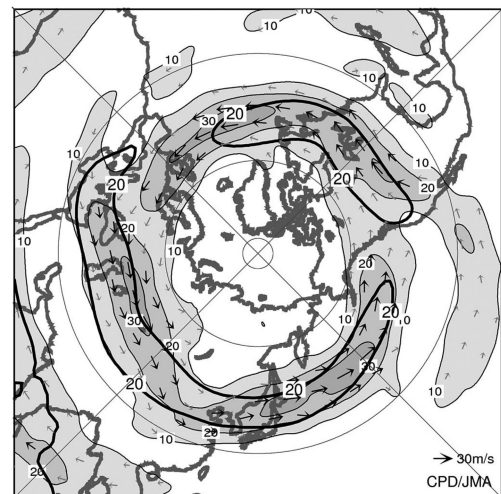
「気候系監視速報」をご覧ください。

<http://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/diag/sokuho/index.html>



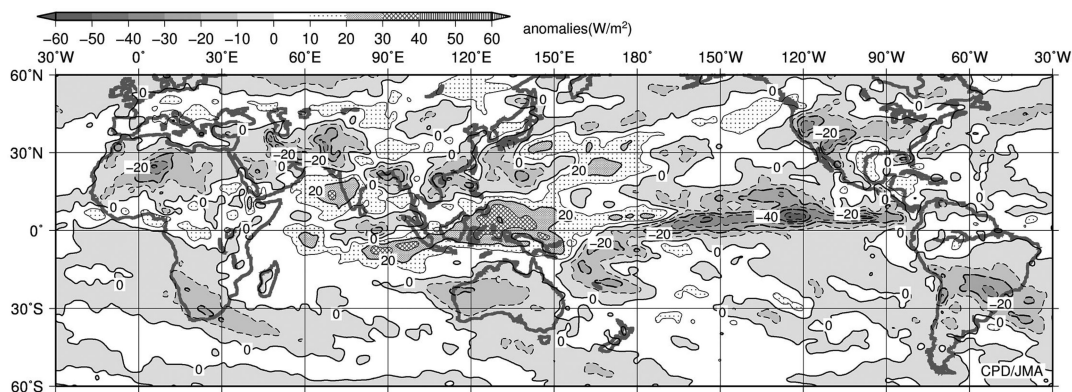
2015年7月の北半球月平均 500 hPa 高度および平年偏差

等値線間隔は60 m。陰影は平年偏差。平年値は1981～2010年の平均値。



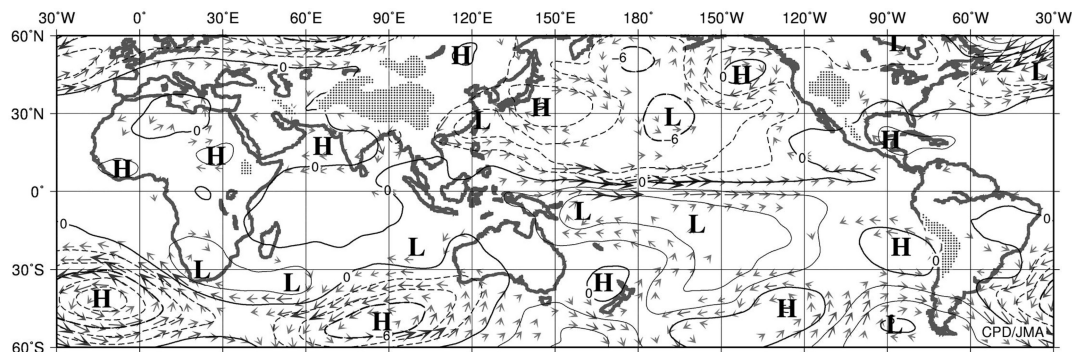
2015年7月の北半球月平均 200 hPa 風速および風ベクトル

等値線間隔は10 m/s。太実線は平年の風速で等値線間隔は20 m/s。平年値は1981～2010年の平均値。



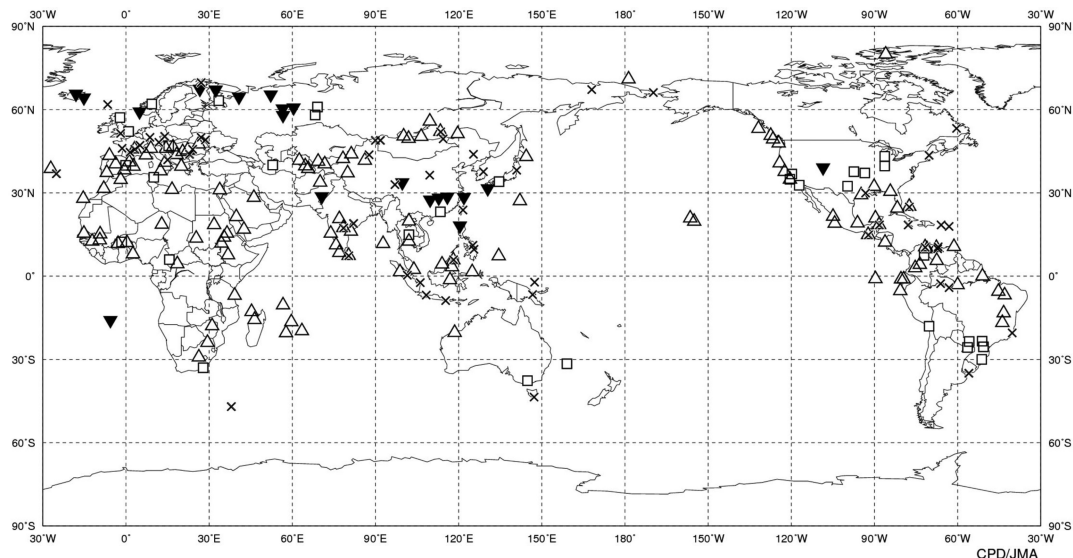
2015年7月の月平均外向き長波放射量年偏差

等値線間隔は10 W/m<sup>2</sup>で、値が小さいほど対流活動が活発であったと推測される。米国海洋大気庁（NOAA）より提供されたデータを用いて作成。年偏差は1981～2010年の平均値。



2015年7月の月平均850 hPa 流線関数年偏差及び風年偏差ベクトル

流線関数の偏差の等値線間隔は  $2 \times 10^6 \text{ m}^2/\text{s}$ 。年偏差は1981～2010年の平均値。



2015年7月の世界の異常天候分布図

△異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨

異常高温・低温は標準偏差の1.83倍を超える場合，異常多雨・少雨は降水5分位値が6および0。